

# ロボット 指示通り動け

小学生対象に教室

## プログラミングに挑戦

大館

大館少年少女発明クラブの児童を対象としたロボット教室が6日、大館市の秋田職業能力開発短期大学校で開かれた。児童たちは車輪で走行するロボットに前進や回転といった動きを指示するプログラムを作成し、試行錯誤しながらプログラミングに必要な考え方を学んだ。

将来のものづくり人材を育てる「おおだてロボット人材育成コンソーシアム」（白川懸士会長）の主催。プログラミ

ングに親しみ、課題解決能力を培う狙いで毎年開催している。今回は初級と中級コースに市内7校の3～6年生17人が参加し、同校の職員や同クラブ会員が講師を務めた。

初級では、前進や停止といった基本動作を組み合わせ、ロボットが決められたコースを走行するようプログラムを組み替えた。児童たちはパソコンで作成したプログラム通

りにロボットが動くか何度も調整を重ね、指令通りに動くことと笑顔を見せていた。

鈴木優哉さん（長木小4年）は「秒数で動きが変わるのは難しいが、パソコンで入力した通りにロボットが動くのが面白い」と話した。

中級では赤外線センサーを搭載したロボットカーを使い、より高度なプログラミングに挑戦した。



プログラム通りにロボットが動くかテストする児童（秋田職能短大）